News Release

財務省　近畿財務局
大津財務事務所

令和８年８月５日

滋賀県内経済情勢報告

（令和８年７月判断）

１．総論

【総括判断】　「緩やかに持ち直している」

項　　目	前回（8 年 4 月判断）	今回（8 年 7 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	⇨

（注）８年７月判断は、前回８年４月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項　目	前回（8 年 4 月判断）	今回（8 年 7 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	⇨
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	⇨
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	⇨
設備投資	7 年度は前年度を上回る見込みとなっている	8 年度は前年度を上回る見込みとなっている	⇨
企業収益	7 年度は減益見込みとなっている	8 年度は増益見込みとなっている	⇗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

２．各論

【主な項目】

■ 個 人 消 費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、物価高により客単価が上昇しているものの、来店客数が減少しており、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売は、化粧品などの売行きが好調であるほか、新規出店効果もあり、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、物価高の影響により売上が増加するとともに、日用品が好調となっており、前年を上回っている。

家電大型専門店販売は、エアコンなどが好調であり、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車は前年を上回っており、軽自動車は前年を下回っている。

観光動向は、国内客を中心に堅調となっている。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 物価高による節約志向により、買上点数は減少しているものの、プライベートブランド商品の販売促進など、競合店との差別化を進めたことから、売上・来店客数ともに増加している。（百貨店・スーパー）
- ➢ セール商品や増量キャンペーン商品などお得感のある商品の売行きが好調。なお、郊外ではドラッグストアなどとの競合が激しく、厳しい環境が続いている。（コンビニエンスストア）
- ➢ 足下では夏物化粧品のほか、洗剤などの日用品で売上が前年を上回り好調に推移。（ドラッグストア）
- ➢ 中東情勢の緊迫化を背景とした石油由来製品の供給不安から、オイル類・ビニール商品の売上が好調。（ホームセンター）
- ➢ 2027 年度より実施されるエアコンの省エネ基準改正を見据えて、改正前の更新需要が高まっており売上は好調。（家電量販店）
- ➢ 自動車税環境性能割の廃止を見据えて登録を先送りする動きがみられたことから、4 月以降の販売台数が増加している。（自動車販売店）
- ➢ 物価高を背景に、関西地域を訪れる国内客において、宿泊価格が他地域と比較して割安なことから宿泊者数が増加している。（宿泊）
- ➢ 原材料価格が高騰していることから、随時価格改定を行っているが、来店客数は増加している。（飲食サービス）

■ 生 産 活 動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）でみると、生産用機械や汎用・業務用機械などが低下しているものの、化学や輸送機械などが上昇しており、生産活動は、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 船舶用部品において、中国向けは造船業全体が活況となっていることから受注が増加しているものの、国内向けは需要が低調となっている。（汎用機械）
- ➢ エアコンについては、2027 年度より実施される省エネ基準引上げを見据えて、低価格モデルの前倒し注文が増加している。（電気機械）
- ➢ 軽自動車・小型車向け部品の受注が好調であることから、当初計画比で増産の状況が継続している。（輸送機械）
- ➢ 大手製薬会社からの受託生産は、風邪薬などの一般医薬品を中心に好調を維持している。（化学）
- ➢ 中東情勢の影響により、原材料の調達に一時的な不安が生じたものの足下の状況は落ち着いている。また、価格高騰に対する価格転嫁も進み、計画通りに稼働している。（プラスチック）

■ 雇 用 情 勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は足下で前年を上回っており、有効求人倍率も上昇しているほか、法人企業景気予測調査（4～6 月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 需要が旺盛となっていることから、増産すべく人員確保を進めているものの、夜勤の応募が少ない状況。不足の解消を図るべく賃上げなど待遇改善を検討している。（電気機械）
- ➢ 製造ラインの自動化を進めるとともに、人員の配置転換を図ることで適正水準を維持している。（窯業・土石）
- ➢ 人手不足が深刻となっていることから、グループ会社からの応援を受けて人手の確保に努めているが、不足の解消に至っていない。（化学）
- ➢ 欠員の補充に苦戦している。段階的に定年の引上げを進めているものの、依然として人員が不足している。（百貨店・スーパー）
- ➢ 以前は地元高校生を中心に募集を行っていたが、応募が少ないことから民間求人サイトを通じて中途採用に注力したところ、少しずつ応募が増加し、足下では適正水準となっている。（娯楽）

■ 設 備 投 資 「8 年度は前年度を上回る見込みとなっている」「法人企業景気予測調査（全産業）」8 年 4～6 月期

8 年度の設備投資は、全産業で 50.9%増（対前年度増減率、以下同じ。）の見込みとなっており、産業別では、製造業で 110.2%増、非製造業で 14.7%増の見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「8 年度は増益見込みとなっている」「法人企業景気予測調査（全産業）」8 年 4～6 月期

8 年度の経常利益は、全産業で 12.0%（対前年度増減率、以下同じ。）の増益見込みとなっており、産業別では、製造業で 9.9%の増益見込み、非製造業で 15.1%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公 共 事 業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 企 業 倒 産 「件数、負債金額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を上回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」「法人企業景気予測調査（全産業）」8 年 4～6 月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455